



JANES Newsletter No.24-1

日本ナイル・エチオピア学会

2016 年 08 月 01 日

1. 巻頭言

重田眞義

日本ナイル・エチオピア学会会長

目次

1 巻頭言 1 頁

2 ナイル・エチオピア地域
現地・渡航情報 2 頁

3 学会動向 3 頁

2016 年より、日本ナイル・エチオピア学会 (JANES) の運営体制はあらたな期をむかえました。これまでも少しふりかえてみますと、2012 年 3 月から 2015 年 3 月までに、研究教育機関に在籍している若手の方を中心に 34 人がこの学会にあらたに入会しました (退会した方が 23 人ですので、学会員は 11 人増加しました。ニュースター No.21-23 参照)。学会の中核的な活動である Nilo-Ethiopian Studies 誌 (NES) は、曾我亨編集長によって定期刊行が実現し、その後石川博樹編集長のもとで定期刊行が続けられました。今期からは、波佐間逸博新編集長のもとで編集委員会がたちあがり、次号の編集準備をすすめています。すべての会員の方々、とくに着々と研究成果を積み上げられている若手の方は、これまで以上にふるって投稿いただくようお願いします。ニューズレターは、藤本武前編集長と増田研ウェブ担当幹事 (今期も継続) のもと紙媒体からウェブサイトを活用して公開する仕組みが 2014 年度に確立され、2015 年には完全移行しました。今期からは、従来の掲載内容の一部を簡略化し、現地情報をふまえて年に 3 回ウェブサイトで公開する予定で、金子守恵新編集長のもとニューズレター編集委員会が作業を開始しました。

2016 年度学術大会は、栗本英世会員 (副会長) のもと、高島市において開催されました。若手の会員による研究や実践的な活動についての発表が半数以上をしめ、今後これらの成果が NES を通じて広く発表されていくことが楽しみです。2017 年度は藤本武会員のもと富山大学にて、2018 年度は石川博樹会員のもと東京外国語大学にて学術大会が開催されることが決定しました。今年度に引き続きより多くの会員のみなさんに、学術交流や情報交換の場として来年度以降の学術大会にご参加をいただきたくお願いします。JANES は、今年で 24 年目をむかえます。来年 25 周年をむかえるにあたり、引き続き学会員のみなさまの相互の情報交流と発信のプラットフォーム的な機能を果たしていきたいと考えております。みなさまのご支援、ご協力をお願いいたします。



2. ナイル・エチオピア地域 現地情報・渡航情報

I. ウガンダにて国際民族生物学会

II. ウガンダビザ情報

III. エチオピアビザ情報

I. ウガンダにて国際民族生物学会開催

2016年8月1～7日、首都カンパラのマケレレ大学において、第15回国際民族生物学会(15th Congress of International Society of Ethnobiology)が開催されます。この大会は、マケレレ大学(Makerere University)、ウガンダ科学技術庁(Uganda National Council for Science and Technology)、ブガンダ王国(Buganda Kingdom)との共催です。また、運営の中心はマケレレ大学の民族植物学グループです。

国際民族生物学会は1988年に設立された団体で、人間社会と自然の関係に関わる領域を広く扱っています。2年おきに大会が開かれており、発表は口頭やポスターのみならず、映像、音楽、パフォーマンスなど様々な形態が見られます。第5回(1996年)はケニア・ナイロビが、第8回(2002年)はエチオピア・アジスアベバが開催地となっており、毎回の大会には日本やアフリカから多くの研究者が参加しています。

学会 URL : <http://www.ethnobiology.net/>

大会 URL : <http://isecongress2016.org/index.html>

(佐藤靖明)

II. ウガンダビザ情報

インターネットを介したビザ申請が2016年6月頃より開始されました。パスポート、黄熱予防接種証明書(イエローカード)等の書類をスキャンした電子ファイルをアップロードして申請しますので、手続き前に必要書類をご確認ください。なお駐日ウガンダ大使館では、窓口・郵送によるビザ申請は従来通り受け付けています。エンテベ国際空港におけるビザの申請・取得については、ネット上には正式な記載はなく、近日中に停止される可能性があります。日本での事前申請、または

最新情報の入手をお勧めします。

オンラインビザ申請 URL:

<https://visas.immigration.go.ug/>

また、近年の黄熱病の流行にともない、入国にあたってはイエローカードの提示が求められます(外務省・海外安全情報2016年5月20日)。渡航情報は変化していますので、ウガンダに行かれる方はご注意ください。

(佐藤靖明・村橋勲)

III. エチオピアビザ情報

2015年から、エチオピアのビジネスビザのカテゴリーが細分化され、取得のために本国の入国管理局からの発給通知なしには入手できなくなりました。査証許可書は、ビザ申請者のエチオピアでの受け入れ企業／団体から入国管理局へ申請し、エチオピア本国の入国管理局からその許可書が在日エチオピア大使館へ通知されてはじめて、申請者がビジネスビザを申請できます。詳細は、在日エチオピア大使館ウェブサイトを参照してください(<http://www.ethiopia-emb.or.jp/front/consular/>)。

長期調査を予定している際には、ビジネスビザを滞在許可書へ切り替える必要があります。その場合にはGIVビジネスビザが必要です。2016年度学会総会では、学会が、学術研究目的の場合に限りビジネスビザの取得支援(査証許可書申請)をおこなうことが報告されました。

児玉由佳会員(6/30学会ML宛送信)によれば、個人で申請される際には、エチオピア本国から査証許可の原本を郵送してもらう必要があるため、準備期間が必要です。組織によっては例外的にPDFでも受け付けてくれる場合があるそうなのでエチオピア大使館に事前にご確認ください。(金子守恵)



3. 学会動向

I. 2016 年度総会報告

2016 年 4 月 17 日(日)滋賀県高島市安曇川近江白浜荘本館白髭ホールにおいて、日本ナイル・エチオピア学会 2016 年度総会が開催されました。

協議事項として、2015 年度事業報告、2015 年度会計報告および会計監査報告(会計監査:久田信一郎会員、児玉谷史郎会員)がありました。また、2016 年度事業計画および予算についての報告もありました。2016 年度からの会計監査には、斎藤直樹会員と梅屋潔会員が選出されました。2015 年度事業報告および 2016 年度事業計画については、4-5 頁(資料 1-2)を参照してください。

報告事項として、第 26 回学術大会開催地が富山大学にて、第 27 回学術大会は東京外国語大学にて開催されることが報告されました(6 頁、資料 3)。また、第 22 回高島賞受賞対象著書として、大門碧会員の『ショー・パフォーマンスが立ち上がる—現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係』(春風社、2015 年)が推薦をうけ、審査の結果、高島賞受賞に値するとの報告を受けました(6 頁、資料 4)。JANES ニュースレター No.24-3 で審査結果報告および受賞記念講演について報告します。



II. 学会体制(2016-2018 年度)

2016 年度評議委員会において、2016 年度からの学会会長に、重田眞義会員が選出されました。重田会長のもとで新たに組織された学会運営幹事は以下のとおりです(以下、敬称略)。

会長:重田 眞義

副会長:栗本 英世

総務幹事:西 真如

会計幹事:児玉 由佳

Web 担当幹事:増田 研

NES 編集委員(50 音順):

石川博樹、佐川徹、佐藤廉也、設楽知弘、曾我亨、中村香子、西崎伸子、波佐間逸博(編集長)、藤本武、増田研、若狭基通

Newsletter 編集委員(50 音順):

金子守恵(編集長)、佐藤靖明、佐藤美穂、村橋勲

*2016-2018 年度評議員は 7 頁(資料 5)をご参照ください。

III. 公開シンポジウム(講演会)・ 学術大会報告

2016 年 4 月 16 日(土)滋賀県高島市安曇川近江白浜荘本館において第 25 回学術大会公開講演会が開催されました。今回の公開シンポジウム(講演会)には、イギリスのロンドン大学より、Tim Allen(ティム・アレン)教授と Melissa Parker(メリッサ・パーカー)博士をお招きしました。講演タイトルは次のとおりです。

講演 1: Prof. Tim Allen & Dr. Melissa Parker 'Humanitarian Impunity, Criminal Justice and Invisible Children: Social Consequences of the War with the Lord's Resistance Army'

講演 2: Dr. Melissa Parker & Prof. Tim Allen 'Deworming Delusions: Mass Treatment for African Parasites in a Biosocial Perspective'

講演 1 については、川口博子会員と米川正子氏(立教大学)、講演 2 に対しては西真如会員と浜田明範氏(関西大学)がコメントをしました。

4 月 17 日(日)は、公開講演会と同じ会場において、第 25 回学術大会が開催され、9 人の会員が発表しました。最優秀発表賞には、善積実希会員(京都大学)が選ばれました。善積会員には、受賞した発表内容の一部を JANES ニュースレター No.24-2 に寄稿していただく予定です。



資料 1

2015 年度事業報告（案）

- (1) 第 24 回学術大会
2015 年 4 月 19 日（日）、藤女子大学北 16 条キャンパス（札幌）
- (2) 公開シンポジウム「移住と先住」
2015 年 4 月 18 日（土）、藤女子大学北 16 条キャンパス（札幌）
- (3) 第 21 回高島賞の授与
該当作品なし。
- (4) 第 2 回最優秀発表賞の授与
第 24 回学術大会において、口頭発表「グンダ・グンド修道院旧聖堂修復に向けた外構修復の報告と、地域の伝統建築技術」の清水信宏会員および、口頭発表「ウガンダ都市部における燃料ブリケットの生産と人びとの食事および調理方法への適応性」の浅田静香会員に対して本賞を授与した。
- (5) 学会誌の発行・編集
Nilo-Ethiopian Studies No.20 の編集・発行・発送、No. 21 の編集
- (6) ニュースレターの発行・編集
JANES ニュースレター22 号の編集・発行、23 号の編集
- (7) 会費請求
2015 年度学術大会会場において参加会員に請求した。また 2015 年 6 月に請求書を送付した。
- (8) 評議員選挙
選挙管理委員会の委嘱（2015 年 4 月 17 日）、学会員のうち選挙人の資格を有するものに対して投票用紙を発送（2016 年 1 月 18 日）、開票作業（2016 年 2 月 24 日）を経て、該当者に当選通知および就任の可否を尋ねるハガキを発送した（2016 年 3 月 1 日）。
- (9) 会員メーリングリストおよび名簿の整備
会費請求書を送付した際に「会員情報更新のお願い」を同封し、メーリングリストへの登録と名簿情報の更新を呼びかけた。

資料 2

2016 年度事業計画（案）

(1) 第 25 回学術大会

2016 年 4 月 17 日（日）、白浜荘アネックス淡海コンベンションホール

(2) 公開講演会「ティム・アレン教授とメリッサ・パーカー博士による講演」

2016 年 4 月 16 日（土）、白浜荘アネックス淡海コンベンションホール

(3) 第 22 回高島賞の選考

(4) 学会誌の編集・刊行

Nilo-Ethiopian Studies No.21 の印刷・発送および No. 22 の編集・印刷・発送

(5) ニュースレターの編集・公開

JANES ニュースレター 23 号および 24 号の編集・公開

(6) 会費請求

2016 年度学術大会会場において参加会員に請求する。また 2016 年 6 月に請求書を送付する。

(7) エチオピアへの調査渡航者に対するビザ取得支援について

資料 3

第 26 回学術大会（2017 年度）の開催について

期 日：2017 年 4 月

開催地：富山大学

第 27 回学術大会（2018 年度）の開催について

期 日：2018 年 4 月

開催地：東京外国語大学

資料 4

高島賞の選考について

日本ナイル・エチオピア学会高島賞第 22 回受賞候補として、金子守恵評議員より 1 件の推薦を受け、これについて遠藤保子会員（選考委員長）佐藤靖明会員（選考委員）、川瀬慈会員（選考委員）の 3 名が審査をおこなった。その結果、大門碧会員の『ショー・パフォーマンスが立ち上がる――現代アフリカの若者たちがむすぶ社会関係』（春風社, 2015 年）が高島賞受賞に値する旨の報告を受けた。

資料 5

2016 年 4 月 15 日

日本ナイル・エチオピア学会選挙管理委員会

委員長 増田 研

委員 波佐間 逸博

委員 佐藤 美穂

評議員選挙の結果報告

2016～2018 年度評議員の選挙結果を報告いたします。

学会員のうち、被選挙人すなわち有権者（選挙人）である正会員、学生会員、在外会員（日本人のみ）（ただし、2016 年 1 月 15 日現在で、2013 年度まで完納していない者、住所不明者、図書館を除く）125 名に対して、2016 年 1 月 28 日付で投票依頼文書と投票用紙を送付しました。2 月 18 日を返送締切とし、期間内に投票された票の開票作業を 2 月 24 日に長崎大学で実施しました。有効投票者数は 58 名でした。

開票作業の結果、得票数上位 35 位までの 37 名（得票数 35 位が 3 名いたため）を当選者として、該当者に 3 月 1 日付で当選通知及び就任の可否を訪ねる回答用葉書を送付しました。その結果、26 名から回答を受け、承諾が 26 名、不承諾が 0 名でした。無回答の 12 名については規定により承諾したものと見なします。

その結果、2016-2018 年度の評議員として以下の 37 名を選出いたしました。（敬称略、50 音順）

青木 澄夫	児玉 由佳	田川 玄	増田 研
石川 博樹	湖中 真哉	柘植 洋一	松園 万亀雄
石原 美奈子	小馬 徹 *	中村 香子	松田 凡
太田 至	佐川 徹	縄田 浩志	松田 素二
奥野 克己	佐藤 靖明 *	西 真如	宮脇 幸生
金子 守恵	佐藤 廉也	西崎 伸子	吉田 早悠里 *
河合 香吏	椎野 若菜	波佐間 逸博	若狭 基道
川瀬 慈	重田 眞義	稗田 乃	
菊地 滋夫	設楽 知弘 *	藤本 武	
栗本 英世	曾我 亨	眞城 百華	

（*印は 2016 年度から新たに評議員になる会員）

編集後記

2016 年度から日本ナイル・エチオピア学会の運営体制が新たな任期をむかえたことにもないまして、ニュースレター（以下、NL）の編集方針を若干変更いたします。従来の掲載内容を簡略化し、会員が現地へ渡航する際に重要な現地情報を加えて、より迅速にみなさまに情報を提供することを目指します。これまで NL がとりあげていた内容を年に 3 回（8 月、11 月、3 月）にわけて配信する予定です。この NL は、平成 27 年度から引き続き、電子版として学会ウェブサイト上で公開し、会員のみなさんには ML にて公開の連絡をいたします。

あらたな編集体制においてもナイル・エチオピア地域で調査研究活動をおこなっている会員を編集委員にむかえエチオピア、ウガンダ、そしてケニアの現地情報を適宜発信します。

今号は、編集委員の佐藤靖明会員、村橋勲会員が、ウガンダのビザ申請方法の変更について現時点で確認できていることをまとめています。6 月から移行期（空港でのビザの申請から、ウェブサイト上での eVISA 申請へ）に入っているようです。NL 編集委員もその動向を注視して、引き続き確実な情報をおつたえします。

2016 年度からの NL に対して、ご意見やご要望などありましたら、編集委員へお声がけください。よろしくお願いいたします（MK）。



- ・ 1 頁目写真: エンセーテ (*Ensete ventricosum*) とコロリマ (*Aframomum corranii*)、2014 年 8 月エチオピア西南部 (撮影: 金子守恵)
- ・ 2 頁目写真: 2014 年 8 月エチオピア南部 (撮影: 金子守恵)
- ・ 3 頁目写真上: 日本ナイル・エチオピア学会公開講演会、2016 年 4 月 16-1 日 (撮影: 村橋勲)
- ・ 3 頁目写真左下: 日本ナイル・エチオピア学会公開講演会、2016 年 4 月 16-1 日 (撮影: 村橋勲)
- ・ 3 頁目写真右下: 日本ナイル・エチオピア学会高島賞授賞式、2016 年 4 月 16-1 日 (撮影: 村橋勲)
- ・ 4 頁目写真: 2014 年 8 月エチオピアコーヒーセレモニー (撮影: 金子守恵)

JANES ニュースレター No.24-1

2016 年 8 月 1 日配信

編集・配信: 日本ナイル・エチオピア学会

編集委員: 金子守恵、佐藤靖明

佐藤美穂、村橋勲